

1型糖尿病には、2型糖尿病様の臨床像を呈するものがあります。

抗GAD抗体陰性例では 抗IA-2抗体の測定が有用です

監修
埼玉医科大学
内分泌・糖尿病内科
准教授
及川 洋一 先生

トピックス

2018年4月より抗IA-2抗体測定において保険算定上の年齢制限が撤廃されました。抗GAD抗体陰性のすべての患者に抗IA-2抗体の測定が可能です。

2型糖尿病として治療中の患者

抗GAD抗体

陽性

緩徐進行1型糖尿病 (SPIDDM)

陰性

抗IA-2抗体

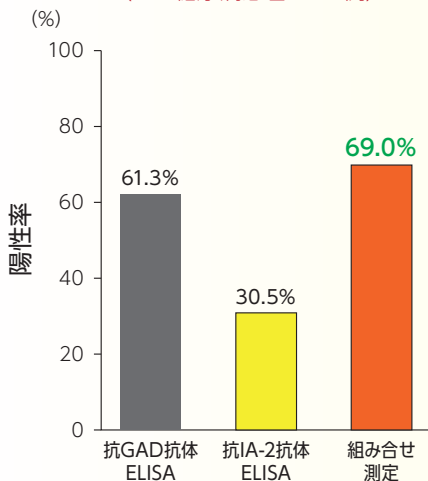
陽性

1型糖尿病 (SPIDDM疑い)

陰性

2型糖尿病もしくは他の型

抗GAD抗体、抗IA-2抗体ならびに
組み合わせ測定における抗体陽性率
(1型糖尿病患者 364例)



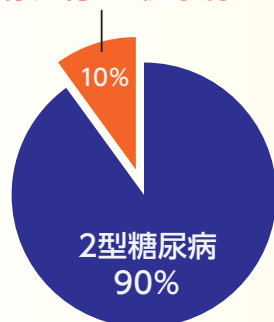
引用: 医学と薬学 75 (6) ,669-680,2018 (一部改変)

* 抗インスリン抗体や抗ZnT8抗体の測定が病型の判別に有用なことがあります。

抗GAD抗体と抗IA-2抗体を組み合わせることによって1型糖尿病の診断に効果的である可能性が示されています。

緩徐進行1型糖尿病 (SPIDDM) の特徴

緩徐進行1型糖尿病



臨床的に2型糖尿病と考えられている症例の約10%が緩徐進行1型糖尿病と報告されています。

血糖コントロール不良例が多い

経口血糖降下薬による治療効果が現れにくい

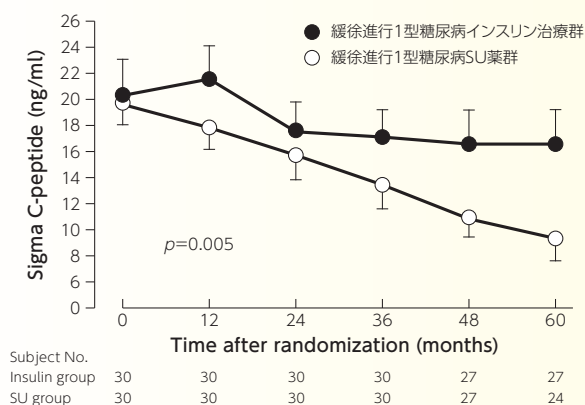
約80%は非肥満例
(平均BMI 22.1kg/m²)

自己免疫性甲状腺疾患の合併が約20%にみられる

糖尿病の家族歴が約25%にみられる
(2型では約40%)

糖尿病 54 (1), 65-75, 2011を参考にして作成

緩徐進行1型糖尿病と2型糖尿病では治療の進め方が異なります



緩徐進行1型糖尿病の患者を、スルホニル尿素 (SU) 薬で治療すると、インスリン治療と比べてインスリン依存状態への進展リスクが高まることが知られています。早期からのインスリン治療を考慮する上で、2型糖尿病との鑑別はとても重要です。

引用: J Clin Endocrinol Metab 93 (6), 2115-2121, 2008

**抗GAD抗体陰性例では抗IA-2抗体を測定し、
2型糖尿病に隠れている1型糖尿病を見逃さないようにしましょう。**